

岩手県水産技術センターニュース
シーガルボイス
SEAGULL - VOICE

No.15 2000年3月

サケ資源に関する公開セミナーを開催



平成11年度の本県の秋サケ漁業は2万4千トンを超える大不漁で終わりました。当センターでは、漁業及び水産加工関係者等から秋サケ漁業に対して強い関心が寄せられていることから、2月23日に宮古市において公開セミナーを開催しました。

目次

特集	岩手県水産業試験研究中長期計画（第2次）
報告	平成11年度岩手県試験研究成果報告会
編集後記	

特集 岩手県水産業試験研究中長期計画（第2次）について

このたび、平成11年度を初年次、平成22年度を目標年次とする岩手県水産業試験研究中長期計画（第2次）が策定されましたので、その概要についてお知らせします。

この計画は、平成11年11月に策定されました岩手県水産業基本計画（第4次）に掲げられている「未来を切り拓く技術開発」のため、水産業試験研究に対する本県水産業界等からのご意見を踏まえて県が策定したものです

この計画では、試験研究の基本目標として次の7点が設定されています。

1. 新たな栽培・養殖対象種の技術開発

○ 新たな栽培対象種の種苗生産技術の開発に取り組みます。

○ マツカワの栽培漁業を確立するため、種苗の安定量産技術と放流技術の開発を図るとともに、効率的な養殖技術を開発します。



マツカワの稚魚

2. 生産性の高い増養殖技術の開発

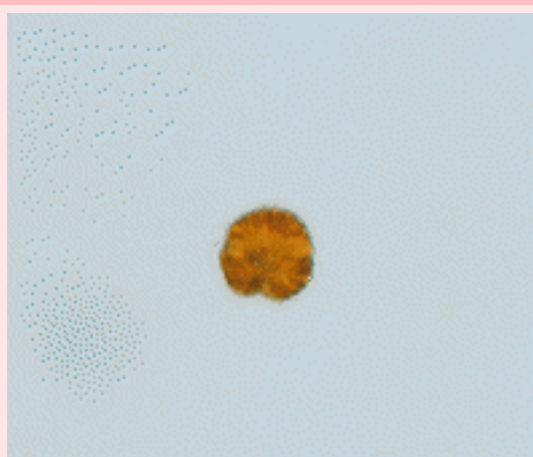
○ サケについて、回帰時の海洋環境と分布移動などとの関係を明らかにするとともに、ふ化場効率化に関する冬季放流や移送放流の回帰効果を評価します。

○ 養殖に適した高成長アワビの作出技術を確立するとともに、それを用いた効率的な養殖技術を開発します。

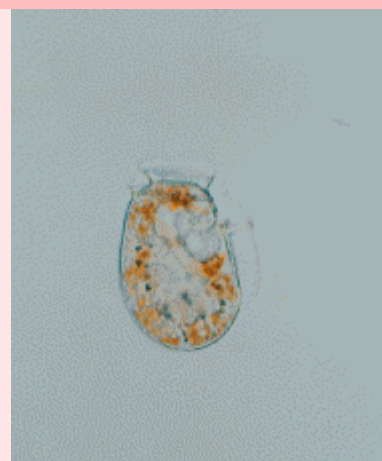
○ アワビ、ウニについて、生産効率が良く、収益性の高い放流技術や増殖場の管理技術を開発します。

○ ワカメ養殖等について、高齢化や担い手不足に対応した操業形態の機械化や省力化を推進します。

○ 二枚貝や海藻養殖について、貝毒や病虫害対策等の一層の推進により、さらに高品質化を進めます。



麻痺性貝毒の原因プランクトンアレキサンドリウム



下痢性貝毒の原因プランクトンディノフィシス

3. 漁場環境の維持・保全

○ 増養殖場の生産力を維持・向上するため、水質や底質などの調査を通じて、漁場の基礎生産力や自浄能力を明らかにし、環境収容力モデルを開発します。

○ 漁場環境の維持・修復を図るため、カキ殻等利用による環境改善技術及び微生物等の利用による人工化学物質影響低減手法の開発を進めます。

4. 高度情報化の推進

○ 水温や水塊の変動特性の抽出による海況動向予測技術を開発し、予報の精度向上を図るとともに、ネットワーク技術の活用による迅速な情報提供を行います。

5. 地先重要資源研究調査の推進

○ ヒラメ、マコガレイ、ババガレイ、アイナメナメなどの地先重要魚種の資源解析を進め、適切資源管理技術を開発します。

○ スケトウダラ、マダラ、ケガニなどの底魚類の資源水準の評価と動向予測の精度向上を図り、適切な利用技術を開発します。

○ アワビ、ウニなどの資源変動要因を明らかにし、適切な資源の管理を図ります。

6. 新しい加工技術の開発

○ 前浜資源の付加価値向上に向けた加工・処理技術の開発を推進します。

○ マツカワなどの養殖水産物の高鮮度加工流通技術の開発や、未利用資源を加工原料として有効に利用するための技術開発及び加工場等における食品の安全性確保のための衛生基準設定など、新しい食品衛生管理（HACCP）方式に対応した技術開発を推進します。

7. 水産業の経営安定研究の推進

○ 養殖業などの沿岸漁業の経営分析を行い、収益性、生産性の高い経営体モデルを構築します。

○ マツカワなど新規養殖業の採算性などについて経営分析を行います。

報告 平成11年度岩手県水産試験研究成果報告会から

[近年の秋サケ資源の動向について](#) さけます研究室 渡部 茂雄

[近年のアワビ資源の動向について](#) 増養殖部 長洞 幸夫

[マツカワの栽培漁業及び養殖の技術開発について](#) 種苗開発部 支倉 理

[新たな秋サケ加工品（切り身）の開発について](#) 利用加工部 坂下 薫

※ 報告内容を見るには課題名のところをクリックしてください。

編集後記

新しい「岩手県水産業基本計画」を基とする「岩手県水産業試験研究中長期計画（第2次）」も策定され、来るべき21世紀の初頭における基本方向が定まりました。これらの計画の趣旨に沿って、いつま

でも、食卓に笑顔をとどけることができるよう日々研鑽を重ね、未来を切り拓く技術の開発に努めて参りたいと考えております。

新しい年度の扉が開いて、この記念すべき2000年が皆様にとって良い年であることを念願してやみません。（副所長 遠藤良雄）
